

1 看護学実習の目的・目標

<目的>

学習した理論や方法を統合し、あらゆる健康レベルにある対象に応じて科学的根拠に基づいた看護を实践できる能力を養う。

<目標>

- (1) あらゆる健康レベルにある看護の対象や対象を取り巻く環境を総合的に把握できる。
- (2) 対象の個別性に応じて必要な看護を判断し、計画的に実践する過程を身につける。
- (3) 保健医療福祉システムにおける看護の役割を認識し、対象のQOLを高めるための看護活動が理解できる。
- (4) 看護者として対象との信頼関係を築くために常に自己を洞察し、共感的態度がとれる。

2 実習計画表

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年				基礎看護学実習 I	基礎看護学実習 I					基礎看護学実習 II		老年看護学実習
2年		成人看護学実習			地域・在宅看護論実習	小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習		小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習	地域・在宅看護論実習	統合実習		

3 実習科目・単位数・時期及び実習施設

科目	単位	実習期間	実習施設
基礎看護学実習 I	1	1年次 7～8月	岐阜県総合医療センター ファミリーケア北方、ファミリーケア本巣 長森いきいき倶楽部、福光グリーンホーム
基礎看護学実習 II	2	1年次 1月	岐阜県総合医療センター
地域・在宅看護論実習	2	2年次 8～11月	訪問看護ステーション 地域包括支援センター 岐阜県立寿楽苑、和光会大黒町デイサービスセンター、 サンライズデイサービスセンター
成人看護学実習	2	2年次 5月	岐阜県総合医療センター
老年看護学実習	2	1年次 2～3月	山田病院、岩砂病院・岩砂マタニティ 美濃市立美濃病院、岐北厚生病院 山県グリーンボート、松波総合病院介護老人保健施設
小児看護学実習	2	2年次 8～11月	岐阜県総合医療センター 岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター 長森幼稚園 かぐや第二こども園
母性看護学実習	2	2年次 8～11月	岐阜県総合医療センター、中濃厚生病院
精神看護学実習	2	2年次 8～11月	公益社団法人 岐阜病院
統合実習	2	2年次 11～12月	岐阜県総合医療センター
合計	17		

4 実習科目と実習のねらい

科目	ねらい
基礎看護学実習 I	コミュニケーション技術を活用しながら対象と関わる中で、信頼関係を築くために必要な「関心を寄せて関わること」への理解を深める。また、良好な関係性を維持しながら、対象を理解するために必要な情報を収集し、対象を理解するための考え方や方法を学ぶ。
基礎看護学実習 II	入院生活を送る対象の健康状態を把握するとともに、健康障害による日常生活への影響を理解する。そして、対象に必要な看護を導き、根拠をもって看護を提供するプロセスを学ぶ。
地域・在宅看護論実習	地域で生活している人々の健康の維持・増進のための活動や地域で療養している人々とその家族の特徴を理解し、住み慣れた地域でその人らしく生活できるように支援するための仕組みと支援活動の実際を学ぶ。また、その仕組みとしての社会資源や職種間連携の必要性和、看護師の役割について学ぶ。
成人看護学実習	積極的な治療を受ける対象の健康状態や心理面の変化および日常生活の変化、そして家族の状況を総合的に捉えながら、対象の個別性に合わせた看護を提供する方法を学ぶ。また、看護実践を通して、地域包括ケアの観点から、入院時から退院後の生活を見据えて支援することの重要性について理解を深める。
老年看護学実習	高齢者とその家族を生活者として総合的に捉え、加齢や健康障害による課題を理解し、その人らしい生活を支える看護の実際と保健・医療・福祉の連携を学ぶ。
小児看護学実習	子どもの成長発達や健康状態に応じた看護を実践するための基礎として、教育や療育の場および治療の場における子どもと家族の特徴や生活を知り、子どもの特性に応じたコミュニケーションの方法や成長発達を支え健康状態に応じた看護の実際と役割を学ぶ。
母性看護学実習	妊娠期・分娩期・産褥期の経過から生理的变化を把握し、それを促進するための看護を学ぶとともに、妊娠期および分娩期の経過が新生児に与える影響を踏まえながら、新生児の生理的变化や適応過程に応じた看護を学ぶ。さらには、家族を含めた母子関係確立のための支援や周産期医療におけるチーム医療の必要性について考えを深める。
精神看護学実習	精神に障害をもつ人とその家族への理解を深め、精神の健康回復への援助過程を通して、精神看護の実際と他職種・他機関との連携について学ぶ。また、対象との関わりから自分の特徴に気づき、患者－看護師間関係を発展させる関わり方を学ぶ。
統合実習	既習の知識・技術・態度を統合し、看護チームの一員として自己の役割と責任を果たすことで、チームで協働しながら看護を実践する。その中で、多重課題に対するマネジメントの仕方、チームで協働するための連携のあり方、リーダーシップについて学びを深める。そして、今後、チームで連携・協働して看護を実践するために必要な自己の課題を明確にする。さらには、卒業後に組織に所属し役割を果たすことを目指して、病棟管理の視点を学び、組織の一員としての役割について理解を深める。